

エコロジカルアプローチがサッカーの中学女子 選手の認知能力に与える影響

國本 成志

本研究は、中学女子サッカー選手を対象に、エコロジカルアプローチ（制約主導アプローチ）と伝統的アプローチが、認知能力に及ぼす影響を明らかにすることを目的としている。サッカーにおける認知能力とは、試合中の状況を迅速かつ正確に把握し、味方や相手選手の動き、スペースの変化、ゲームの流れを分析し、最適な判断を下す能力を指す。サッカーは、試合状況が刻々と変化する中で認知、判断、実行の高度なスキルが求められるスポーツであり、指導方法の違いが選手の成長に重要な役割を果たすと考えられる。本研究では、ゲーム形式のプレー後に選手へ口述インタビューを実施し、プレー中の認知や思考、実行についてのデータを収集した。

実験対象は、熟練者で構成されエコロジカルアプローチを行っているチーム、熟練者で構成され伝統的アプローチを行っているチーム、準熟練者で構成されエコロジカルアプローチを行っているチームの合計 3 チームの選手である。3 チームの比較から熟練度による差異、エコロジカルアプローチ-伝統的アプローチによる差異を紐解いていく。口述について認知概念、目的概念、実行概念の 3 つの観点から分析を行った。結果、エコロジカルアプローチを採用したチームでは、選手が環境からの気づきを得て自主的な判断力や認知能力を向上させる傾向が見られた。一方、伝統的アプローチのチームでは、味方や相手に対する認知能力は高いものの、試合全体を俯瞰する思考や柔軟な判断力において課題が確認された。また、熟練度が高い選手ほど、エコロジカルアプローチの効果が大きいことが示唆された。

さらに、選手の認知スタイル（場依存・場独立）が指導方法の効果に影響を及ぼす可能性があることを示唆している。場依存的な選手は環境設定を通じた学習が効果的であり、場独立的な選手は論理的な指導が適している傾向があった。このことは、選手個々の認知スタイルに応じた柔軟な指導方法の必要性を示唆している。

本研究は、エコロジカルアプローチが選手の認知能力やパフォーマンス向上に効果的であることを示し、さらに認知スタイルを考慮した指導方法の重要性を提案する。今後の課題として、指導方法の長期的な効果の検証や、エコロジカルアプローチと伝統的アプローチの組み合わせが与える影響の検討が挙げられる。本研究の成果は、スポーツ指導だけでなく教育や職場環境における学習・成長支援の手法にも応用可能である。

（指導教員 松原 正樹）